

# 第23回東日本事例研究オンライン研修会 発表概要シート

法人名	セコムフォート多摩株式会社	施設名	コンフォートロイヤルライフ多摩
発表タイトル	服薬ロボット導入による自立支援を目指して ～多職種連携で取り組む服薬支援～		
研究の目的	①誤薬防止 ②自立支援 ③業務短縮		
発表の概要	<p>当施設のご入居者の平均年齢88歳、認知機能の低下と持病の重度化が危惧される方の増加傾向が見られます。そういった中、ご入居者の健康を守るため、職員が内服管理に介入していく方が増えていますが、介入を希望されないご入居者も少なくありません。一方、自己管理を続けたことで誤薬していた事例の発見が散見されています。</p> <p>そこで、ご入居者・職員共に、より良い方向性を見出すことに苦慮していた中「服薬ロボット」の導入に取り組むことにしました。この取り組みが新たな希望への道標になったことをご報告いたします。</p>		
研究方法	<p>①服薬ロボット導入と検証:2021/8月～2023/5月 導入総数:14名 現在使用中:8名 自立支援:4名 職員支援:4名 中断:6名</p> <p>②服薬ロボット使用について職員アンケート調査</p> <p>③服薬ロボット使用について使用中のご入居者へ聞き取り調査</p>		
成果・結果	<p>&lt;成果&gt;</p> <p>①服薬ロボット利用が定着したケースでは、ご入居者の自尊心の保持しながら、内服忘れ・二重内服・取り違いを回避でき、自立支援につながったと考えられること</p> <p>②連携先薬剤師が介入することにより、スタッフの業務負担感が軽減され、安心感が増したこと</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>①導入開始までの手続きが煩雑で時間を要したこと</p> <p>②緊急時や外出時など、通常と異なる操作方法の情報共有</p> <p>③継続的なご入居者の利用状況モニタリングやアセスメントが欠かせないこと</p>		
考察	<p>私達が行う服薬管理とは、その方の健康を守るための重要な役割を担っています。</p> <p>服薬ロボットの使用にあたり、使用可能かどうか見極めるポイントとして、その方の認知機能・視力・聴力・手指の動き・嚥下状態などに問題がないかどうかをしっかりと評価することが重要と感じました。加えて快く理解し、前向きな表情・言動であることが成功の鍵だと思われました。</p> <p>同時に、服薬支援の必要な対象者が増えていく中で、多職種連携が必要不可欠です。</p> <p>当施設では、現在多くの職種・職員がご入居者の服薬介助に何等かの形で関わっています。</p> <p>今回ご報告した「服薬ロボット」は、ご入居者の確実な服薬支援に有効なツールとなっており、施設内の多職種連携の後押しとなっています。</p>		
アピールポイント 伝えたいこと	<p>ご入居者にとっての幸せとは、「自分らしい生活を続けること」だと思います。</p> <p>服薬管理においても、その方が出来なくなってきたことに対し、過度な介入で自尊心・自立心を損なわない環境作りと、人の温もりを大切にしたいと考えます。</p> <p>当施設の理念である「入居者原点」に立ち返り、「チームワーク・チームプレイ」「入居者の満足・職員の幸せ・ロイヤルの発展」に一歩ずつ近づけるように、志していきたいと考えます。</p>		